

「税金は、空気に似ていると思う。」

南島原市立南有馬中学校3年 中村 うた

税金について考えた時、ふと思った事があります。それは「税金って空気みたいだな。」です。空気は、普段あまり意識しないけれどなくなったら一瞬で困るものだ。私たちは生きていく中で、当たり前のように空気を吸っている。でもその空気がなくなったら、息ができなくなつてパニックになるだろう。税金も、日常ではあまり意識されなくなつたけどなくなつたら社会が成り立たない。そんな存在だと思った。例えば、道路が整つていて、信号がちゃんと動いている。学校に通つて授業が受けられる。病院に行ける。ごみが毎週ちゃんと回収される。当たり前に見えるけれど、全部税金が使われている。つまり、税金は社会を動かす。見えない空気みたいなもので、みんなと暮らしを支えている存在です。

だけど、空気が汚れていたらどうだろう。息がしにくくなつたり、体に悪影響が出たりする。同じように税金の使い方が汚れていたら、社会もおかしくなる。政治家の不正や、税金の無駄遣い。そういうニュースを聞くとまるで空気が汚染されたような気持ちになる。ちゃんと税金を払つている人が損する社会は、息苦しい。

だから私は、「払いたくなる税金」になつてほしいと思う。ただ集めるだけじゃなくて「このお金がこう使われています」と分かりやすく見せてくれたら、もっと信頼できるし払う側も納得できるんじやないか。見えないものだからこそ、透明でいてほしい。空気も税金も、きれいであることが大事だ。

まだ私は税金を払つていません。でもこれから大人になったとき、「税金を払う=損する」ではなく、「社会に空気を送るようなもの」と思えるようになれたらいなと思っている。

もう一つ、私が税金について考えるときに感じるのは、「誰のための税金か」ということだ。多くの人は、自分の生活のため、身近なサービスのためと思っているかもしれない。もちろんそれも大切だ。でも、自分以外の誰かのために使われる税金にも、意味があるんじやないか。」たとえば、自分が使わないかもしれない障がいのある人の支援、子育て支援、高齢者の福祉。こういったものにもたくさん税金が使われている。自分が困つたとき、見ず知らずの人の税金が自分を支えてくれる。それって直接は顔を合わせないけど、つながりあつてゐる社会だと思う。それが税金という形でできるなら、すごく意味のあることだと思った。

だからこそ、私は「税金=ただのお金」とは、思わず、見えない誰かとつながるための信号のようなもの。今はまだ学生だけど、こうやって税金のことを知つて、自分なりに考えることが、未来の社会づくりの第一歩になると思っている。